

井の頭自然文化園開園 70 周年記念
「わたしと井の頭自然文化園」エッセイ

文化園賞：田中順子



わたしと井の頭自然文化園

井の頭自然文化園の温室の中で撮られた一枚の写真があります。そこには五十年ほど前のわたしと弟が写っています。

わたしはまだほんの小さな子どもで、温室に入ると生い茂った見慣れない木々の中に美しい鳥が鳴いていて、暖かくて、なんだかちょっと湿っぽくて。どこかで覚えた「ジャングル」に行った気分になって、夢をふくらませたものです。

温室の横には観覧車がありました。今どきの巨大な観覧車ではなく、おとぎ話しの小さな遊園地の小さな観覧車です。一周するのに何分かかったのでしょうか。そんなに時間を要さなかったと思うのですが、子どものわたしにとっては、長い時間空中に浮かんでいるようで、それはそれは楽しいひと時でした。

駱駝も麒麟も居ました。孔雀が園内を歩き羽を広げていました。象のはなこさんの若い姿がありました。

父や母が駱駝のこぶの話をしてくれました。はなこさんのことを話してくれました。

あの頃を想うと、年老いた母も亡くなった父も若く澁刺として、子どものわたしは無邪気な幸せの中にいました。

子どもの頃の幸せを想う時、優しく、守られている感覚が湧きあがり、大人になってからの幸せとは別のものを感じます。

井の頭自然文化園もあの頃と様変わりしていますが、今でも、若いお母さんやお父さんに見守られてモルモットを抱く子どもやリス園を探索する子ども達は、無邪気な幸せに包まれていることでしょう。

そして、何十年か後に井の頭自然文化園を訪れた時、その幸せを思い出して優しい気持ちに包まれると好いですね。